



スズラン

# 事務所便り

令和6年4月号

特定社会保険労務士・行政書士 重村 勝弘  
重村行政労務管理事務所  
ご連絡先：〒235-0021  
：横浜市磯子区岡村 7-8-15-102  
電話・FAX：045-754-3412 携帯:070-5542-1466  
E-mail：[shigemura.office@etude.ocn.ne.jp](mailto:shigemura.office@etude.ocn.ne.jp)

## ●定額減税の実施の概要

日本では、ここ数年物価高続いており、特にウクライナ侵攻等の影響を受け、物価高が続き、経済的に苦しいと感じている方も多いものとおもいます。

このような国民の不安の解消策が定額減税です。その概要は以下のとおりです。

- ・ 減税金額：1人につき所得税3万円、

項目	定額減税の詳細
理由	物価上昇による家計負担の軽減
期間	所得税減税：2024年6月～ 住民税減税：2024年7月～
内訳	所得税減税：3万円 住民税減税：1万円
対象条件	納税者および扶養家族 年収2,000万円超は対象外

住民税1万円 合計4万円

- ・ 制度開始時期:2024年6月以後  
給与所得者は給与等から控除されます。

## ＜年金生活の夫婦二人(奥様は被扶養配偶者)の減税＞

- ・ 減税額は同じで、合計8万円
- ・ 所得税（3万×2人）は6月以降の年金から控除、
- ・ 住民税（1万×2人）は10月の年金から控除
- ・ 引ききれない分は次回の年金から控除
- ・ 8月でも控除しきれない場合には、10月以降順次控除していく。

定額減税は、2024年限定で行われる政策ですが、物価が上がっても収入が増えない中、多くの家庭にとって有難い制度と言えるでしょう。

年金と給与所得をもらっている人は、両方から定額減税を受けていますので、確定申告での再計算が必要ですが、

## ●無人機の戦争～拡散する新たな“兵器”

### [多用される無人機]

生活の場で、物流の場で人の営みを助ける無人機はウクライナの大地で殺人兵器と化していた。



ウクライナでは史上かつてないほど大規模に戦場に投入され、現代の戦闘の様相を変えた。

その「無人機の戦争」は今、各国の戦略に影響を及ぼし始めている。



### [無人機の特長]

- ・ 1機数十万円で製造された無人機が8億近い戦車を一瞬で破壊する「費用対効果」。
  - ・ 大がかりな生産ラインを必要とせず民間で短期間に大量生産可能な「生産性」。
  - ・ レーダに映りにくく迎撃困難で、衛星データでピンポイントで敵を狙う「実効性」。
  - ・ 何よりも兵士の命を危険にさらすことなく敵を攻撃できる「安全性」。である。
- 2年間の戦闘において無人システムは陸、海、空での戦闘において有効性を証明した。特にロシア艦隊に対するウクライナの攻撃はニュースでも報じられているとおりである。

## ウクライナの無人機増産体制

ゼレンスキー大統領は2月、軍に無人機に特化した部門を新設すると発表。国内で年内に100万機を製造する計画だ。

ウクライナでは無人機の生産に関わる企業が200社を超えたとされる。市民により市販の部品で作られる手製無人機も戦場に投入されてる。

てき弾が取り付けられた民生用の無人機（ウクライナ軍）



ウクライナ軍は1か月に1万機の無人機を消耗しているとの試算があるが、ウクライナは今後、これを大きく上回る生産体制を構築し、戦闘の長期化で欧米の支援の先行きに不透明感が増すなか、徹底抗戦を続ける意志を示そうとしている。

軍用無人機を生産するウクライナ国内の工場



### 【ロシアの無人機生産】

兵力で圧倒するロシアも無人機をいっそう重視する姿勢をみせている。イラン製を大量に投入していると指摘されているが、国産の生産も拡大。2023年12月、ショイグ国防相はプーチン大統領を前に無人機の生産が侵攻当初（2022年2月）の16.8倍になったと胸を張った。

その4か月前に開催されたロシア国防省主催の国内最大の兵器見本市で国産無人機や無人艇が展示され、プーチン大統領が「特に注目されるのは無人機だ。この分野は軍と民の両方で活発に開発が進められている」と強調していた。



ロシア国防省主催の兵器見本市（2023年）各種無人機を展示

ウクライナ側はロシア製無人機の近代化が急速に進んでおり、人工知能搭載型の研究も進めていると警戒を強めている。

陸上自衛隊はすでに小型無人機を情報収集などに活用しているが、今後は攻撃にも導入しようとしており、2022年に策定された「防衛力整備計画」では、将来的に有人の対戦車・戦闘ヘリコプターを廃止して、無人機に置き換える方針が示されている。

### 【自衛隊の無人機】

自衛隊においても無人機の研究は行われており、偵察用の無人機はすでに導入されている。



陸上自衛隊が運用している無人偵察機「スキャンイーグル」

小型の攻撃用無人機の取得も盛り込まれ、すでに

機体の検討作業に着手。防衛省によると目標を探索して砲弾などを投下するタイプと目標に突入する自爆型のタイプなどを想定している。



世界は無人機という新兵器をいかに戦力化するか模索している。

ウクライナ戦争を契機に世界は無人機を使用する新たな戦略・戦法を策定しようとしている。